

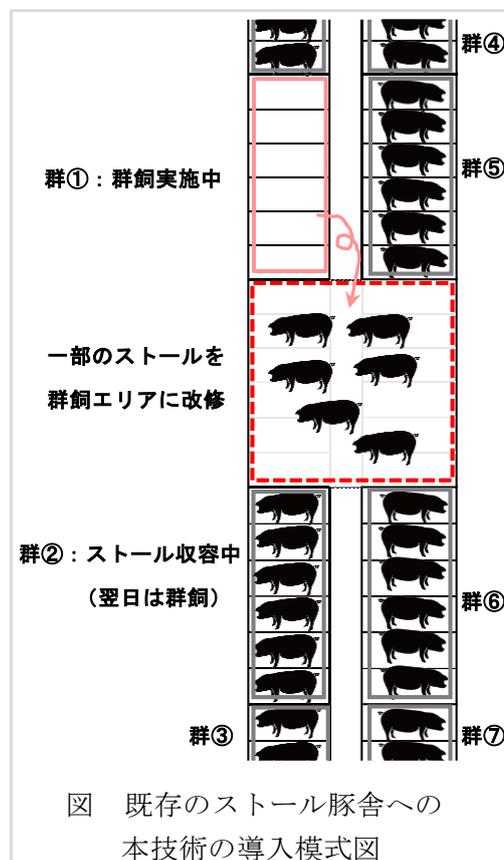
妊娠豚のアニマルウェルフェアを向上させる 低コストな飼養管理技術

養豚生産における繁殖雌豚の単飼ストールでの飼養は、ブタが持つ社会行動や環境探査への動機付けを満たすことができないため、アニマルウェルフェア（以下 AW）の観点から改善が求められています。しかしながら、欧米で普及が進む群飼システムはストールシステムと比較して単位面積あたりの飼養頭数の減少を伴い、導入コストが高額であるなどの経済面での懸念から国内での普及は限定的です。筆者らはこのような現状を踏まえ、AWと農場の経済性を両立する選択肢となりうる新たな飼養管理技術を考案しました。

☆ 技術の概要

本技術は、既設のストールを利用しつつも一部のストールを取り払うことで群飼エリアを設け、小規模な群に分割した妊娠豚に対して、日または時間帯ごとに群飼機会を与えるという飼養方法です（図）。各観点でのメリットは以下の通りです。

- 週に1回程度、数頭の妊娠豚を一群として群飼エリアへ移し、重要な AW 評価指標の一つである正常行動（運動、探査、社会行動など）の発現機会を提供します。
- 各ストール内で給餌を実施することで、ストール豚舎の利点である個体毎の給餌管理、健康観察の容易性を維持することができます。また、群飼時のデメリットである、給餌前後の激しい敵対行動を抑制できると考えられます。
- 一般的な群飼システムと比較して、群飼エリアとして必要な面積が小さいことで、導入後の飼養頭数の減少を最小限に留められます。
- 畜舎の新設や大規模改修を伴わないため、導入コストが抑えられ、畜舎の更新時期に影響されず導入することができます。



☆ 活用面での留意点

妊娠豚を群飼する際、特に混群初期には敵対行動の発生が避けられません。社会的ストレスを軽減するためには、群飼エリア面積、一群の頭数、群飼頻度、環境エンリッチメントの種類といった項目について、導入する農場の環境条件や管理体制に合わせた設計が求められます。詳細については、農研機構お問い合わせフォームよりお問い合わせください (<https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/index.html>)。

(農研機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 嶋崎知哉)